る～らる通信

土佐の女性が積極参加

トンボ、ホタルの飛ぶ小川の復活を

高知県農林水産部耕地課集落排水班長　田村　滋

■はじめに

高知県は東西に長く黒潮洗う太平洋に面し、背後に四国山脈が厳しく迫って平地が少なく、森林率84%（日本一）の7,104平方キロの地に、81万人が住んでいます。53市町村のうち46市町村が、いわゆる中山間地域です。

さんさんとそそぐ太陽のもと、青い海、青い空、緑濃い山野に恵まれた本県ですが、基幹産業の農林業の低迷、過疎化や高齢化が進行しています。これに伴って森林や耕地の荒廃も目立ち水源のかん養、防災などの面で、中山間地域が有している公益的機能の低下が懸念されています。

この度、圧倒的支持を得て再選された橋本大二郎知事は、早くから本県の振興に力を注ぎ、特に中山間地域の振興を掲げてきました。

平成７年４月の機構改革で「中山間総合対策本部」（本部長 山本卓副知事）が発足して、農林業を中心とした産業振興策だけでなく、定住・交流促進対策、地域の担い手対策、地域資源の保全・活用対策などが取り上げられ、これまでの縦割りでなく、事業の効率化、集中化を図るための調整を行いながら新たな施策の展開をもくろんでおります。

すなわち、「活力に満ちた中山間づくり」に向けて、今、県は総力を結集して、その推進に努力しています。

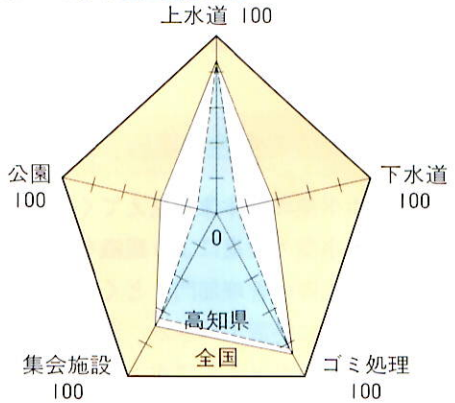
私は、平成７年４月から耕地課の機構改革で新たに設けられた集落排水班の班長となりました。農業土木技術者１人、生活関係普及員１人の計３人で構成され、思いを新たにして任務の遂行に日夜励んでいます。

■遅れていた事業への取り組み

本県においても、近年農村地域の環境は著しく変化しており、生活様式の変貌や生活の多様化、それに市街地に近づくほど混住化が進み、緑に恵まれたふるさとの面影はだんだん薄れてきています。特に環境の根本を司る水をめぐる状況は悪化の一途をたどっております。これは、生活雑排水の増加と汚水処理施設の整備の立ち遅れが要因となっているのです。

［表－１］

農村の生活環境整備状況 農業集落別整備率（%）



S63、H元　農村地域整備状況調査（国土庁）

（単位：%）

	全国	高知県	較差
上水道	88.8	83.1	△ 5.7
下水道	34.5	8.0	△ 26.5
ゴミ処理	90.4	88.3	△ 2.1
集会施設	72.7	69.0	△ 3.7
公園	34.5	12.7	△ 21.8

（センサス集落毎の整備率）

私は、平成４年から農業集落排水事業と、その普及に専念して取り組むことになりましたが、平成元年の国土庁による農村地域整備状況調査によりますと、〔表－１〕のように本県の農村生活環境整備は遅れており、特に下水関係は遅れが目立っています。

しかし、だからこそやり甲斐のある事業で、当初は手探りでしたが、上司から「これからこの事業は県の重点施策の一環として力を入れているので、良い計画を立てれば、ハード面では今までとは様変わりの速さで実現するだろうが、問題はソフト面、つまり管理体制をいかに整備していくかにかかっている」といわれたことに、この事業の要点があるように思いました。

平成４年度に香美郡夜須町で、農業集落排水事業の県下第１号が採択されました。これを機会に、これまで高知県農村総合整備事業推進協議会の中に組み込まれていた集落排水事業を単独化して、土地改良事業団体連合会と集落排水事業予定市町村、それに実施地区で組織する「高知県農業集落排水事業推進協議会」を発足させました。

会員相互の連絡協調、調査研究事業推進のための本格的な体制づくりに入ったわけです。

■土佐の女性の積極参加

集落排水事業の全体像が見えてくればくるほど、また事業の推進により組織を拡大するにつれて、実際の管理部門、とくに末端の管理をどのように処置すべきか、大きな課題となり、悩みぬいたところです。

昔から高知県人は海洋型と山岳型に極端に分かれていて、坂本竜馬の如く奔放に活躍する海洋型と牧野富太郎の如く、ゆっくりと思考し、ねばり強く業績を重ねていく山岳型があります。

女性にも明治時代に婦人参政権を主張した楠瀬多喜のような活動家がいます。男まさりで、活動的な女性を土佐のハチキンといいます。反対に山内一豊の妻千代のように男性の陰にかくれて内助の功につくす心優しい女性も多くいます。

現在、マス・メディアの発達で、混住地域はもちろん、昔ながらの農村集落でも、新しい生活志向がどんどん浸透し、ハチキンや内助の功型の女性が活躍の場を求めています。

これを見逃すことはできません。いつの間にか、私は、集落排水事業の管理部門は土佐の女性にまかすにかぎるという信念のような思いを抱くようになりました。

今ではこの考え方に理解と賛同を示してくれて、末端管理の責任者に女性を登用するシステムづくりを進めました。彼女らも元気に対応して、早速小グループをつくり熱心に勉強をしはじめました。

女性を中心とした活動方法は大当たりとなりました。

よく考えてみますと、やはり台所に発し、ふるさとの小川にそそぐ水に注意を払い、トンボ、ホタルの飛び交う環境を守り育てていくためには、どうしても女性の参加がなくてはなりません。いくら立派な施設をつくっても、管理の行きとどかないものは、形つくって魂入れずの無用の長物になってしまうでしょう。

山内一豊が24万石の城主となった高知城

■女性による、すてきな美しいむらづくり

女性を管理の中心とする発想から約１年半の努力が結集したのが、平成６年11月30日に香美郡夜須町公民館で開催された『高知県農業集落排水を考える女性の集い』で、テーマは“女性から見たすてきな美しいむらづくり”です。

各地から集まった女性を中心に約700人が出席し大盛況となった

明日の農村のために熱心に取り組む女性たち

会場には県下各地から約700人が出席しましたが、このうち女性が520人、しかも地域ごとの任意女性グループが360人もいました。私たちは多くて400人の出席者を予想していましたので、ほんとに嬉しい悲鳴をあげ同時に女性のパワーとエネルギーに感服し、女性の事業への参加の重要性、必要性を認識しながらこの集いの成功に満足したものでした。

橋本孝子知事夫人のあいさつにつづいて、元日本農業集落排水協会専務理事藤野欣一氏が「集落排水事業推進について21世紀へ向けて女性への期待」と題しての基調講演を行いました。「ふるさとの唱歌を子供たちが歌う、豊かで環境の整ったむらづくりを女性が中心になるよう、今すぐ行動を起こしてください。」と呼びかけていただき、会場内も大変感動して大きな拍手が起きました。

事例発表では、恒石巌夜須町環境課長が県下の先駆となった上夜須地区農業集落排水事業について説明し、この事業の必要性を訴えました。

パネル討論では、中野拓治農林水産省構造改善局整備課課長補佐がコーディネーターに、次の５人の女性がパネラーとなって、それぞれグループの活動状況や課題などを発表、活発な意見を交わし、快適な農村生活をめざして“みんなでやろう”と誓い合いました。

- ▶上村寿美子さん（長岡郡大豊町怒田）
  テーマ＝「私たちの実践する集落環境整備」
- ▶浜田美和さん（南国市浜改田・ひまわりの会）
  テーマ＝「集落排水事業から考えた環境問題への取り組み」
- ▶水田初代さん（吾川郡伊野町枝川・水の会）
  テーマ＝「農業集落排水事業に伴う生活雑排水浄化実践活動」
- ▶片山美弥子さん（吾川郡春野町西畑）
  テーマ＝「私たちの水環境は私たちの手で」
- ▶武市由美さん（高岡郡窪川町本堂・かえるんど）
  テーマ＝「生ゴミのリサイクルから」

日本最後の清流といわれる四万十川

■花嫁対策やむらの共同体構築へ

「農業集落排水を考える女性の集い」の成功に喜んだ私たちは、さらに気を引き締めながら、女性を中心とした管理体制の整備の完成に向かって、自信をもって積極的に事業を進めています。

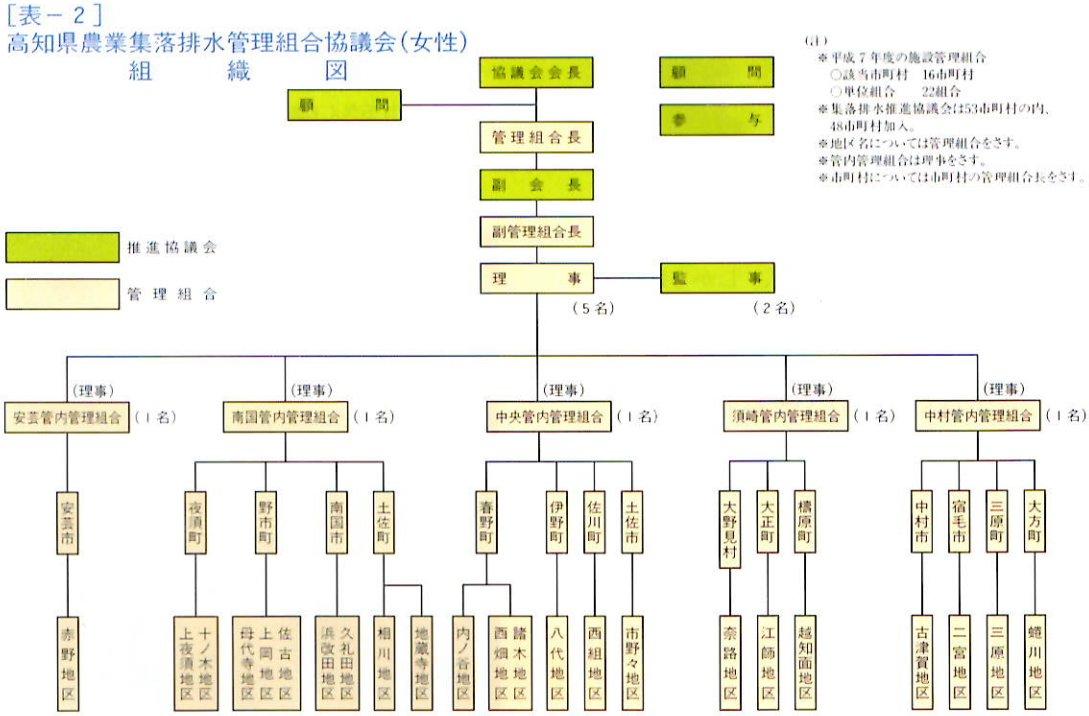
高知県の農業集落排水事業は、平成７年度までに16地区、平成８年度には７地区の新規採択を国に申請していますが、この事業が中山間地域の多い本県にとって必要欠くべからざる事業であることが、しだいに県下に浸透しておりますので、これから年々需要が増加していくものと思っています。

平成７年８月には、女性を末端部門の管理責任者に登用した維持管理システムを普及させるため、高知県農業集落排水事業推進協議会の中に「高知県農業集落排水管理組合協議会」〔表－２〕をつくりました。

完成した農業集落排水事業（処理場）

女性による日常管理と保守点検

［表－２］
高知県農業集落排水管理組合協議会（女性）
組　織　図



月の名所として有名な桂浜

家族の憩いの場としても活用されている

生態系に配慮した排水路と公園

生態系に配慮した工法

町民あげての美化運動

また、7年10月20日には、事業実施地区の女性リーダー26人による研修を行い、岡山県矢掛町、香川県豊浜町の現地視察や情報交換などの勉強をしました。

この研修は、視察地区の宅地内工事や融資制度、施設の維持管理、家庭排水浄化などについての苦労話を聞き、大いに参考になりました。また、参加した女性リーダーは初顔合わせの人たちが多く、それぞれ自分の地区の実態などのきたんない話し合いができ、そして何よりも、お互いの連帯感が盛り上がったのが、ほんとに大収穫でした。引きつづき研修の機会をつくりたいと思っています。

私たちは、これまで集落排水事業の推進や普及に奔走し、特に女性の参加に積極的な努力をしてまいりました。しかし、本来は、農村の環境整備には農業集落排水事業が不可欠なものであることを、女性自身に認識してもらい、施設の管理は女性が中心となって、受益者自らの手で行う体制づくりをしてもらいたいのです。

このため、平成8年度には『第2回農業集落排水事業を考える女性の集い』を開催するとともに、実施地区の女性リーダーの育成、研修、農村地域生活排水総合対策などを計画しています。

また、農業集落排水事業の推進は、深刻な農村の花嫁不足対策、農業後継者の育成、さらには失われつつある日本農業伝統の「むらの共同体」の復活とその活性化につながるものだと思います。ですから私たちは、特に生活の中心となる女性の視点と役割を重視した、農村地域の快適な環境づくりに、そして、すてきな美しいむらづくりに情熱を燃やしつづけてまいりたいと考えています。